

研究の萌芽と成果

コンピュータ・ネットワーク工学科

故 伊藤毅名誉教授の業績

音響工学の確立

伊藤毅先生は第2次世界大戦さなかの1942(昭和17)年9月に早稲田大学理工学部電気工学科を卒業して同大学院研究生となり、故黒川兼三郎教授の指導のもと「電波及び音波の伝播現象に関する研究」に従事、1945年4月早稲田大学理工学部教務補助に嘱任され電気通信学科に勤務、1949年に助教授、1959年4月に同教授に嘱任された。1989年3月定年退職されるまで、戦時中の電波工学のほかは、音響物理、電気音響、室内音響、騒音・振動制御など一貫して音響学・音響工学の教育・研究に携われ、電気通信学科において音響工学の講義を担当された。1977年には「音響工学の研究」に対し大隈記念学術褒賞が授与されている。

その間、1947年度の2名に始まり、1988年度の7名まで実に400名を超す卒業生、80名の修士、15名の博士を送り出されている。学内外で直接、あるいは著書を通じて薰陶を受けた多くの人々が、今も世界中で音響はもとより多様な分野で活躍しているのは頼もしい限りである。

日本音響学会、電気学会、電子通信学会、アメリカ音響学会等に多くの論文、講演発表をされ、また学会や政府関連の委員会の役員を歴任された。1977年から2年間日本音響学会の会長を務められ、アメリカ音響学会、AESのフェローでもある。

1951年の『立体回路』をはじめ多くの著書がある。特に1955年に初版が出版された『音響工学原論 上巻』、『音響工学原論 下巻』(1957年)、『騒音制御工学』(以上コロナ社、1969年)、『音響工学』(電気書

院、1977年)により日本の音響工学が確立したといえる。いずれも版を重ね、現在でも早稲田大学はじめ広く定番の音響学の教科書として使われている。1979年には『音響工学』に対し電子通信学会第23回著述賞が授与されている。

伊藤先生は単位や数式の記述に厳格であり、JIS、ISOなど規格制定にも尽力された。音響に関する工業規格制定の専門委員会委員長を歴任され、1969年には「音響機器のJIS普及」につき通産大臣表彰されている。

伊藤先生はまた1951年の早稲田大学共通教室講堂、1957年の早稲田大学記念会堂、山梨県民会館、1964年の小樽市民会館ホール、1968年の島根県民会館ホール、1974年の島原文化会館ホール、1988年の江戸東京博物館はじめ多くの建物・施設の音響設計を手がけられた。1964年の東京オリンピックの国立競技場での開・閉会式の拡声を、様々な難題を克服して見事にまとめられた功績は今でも語り草になっている。

音響学、文化、社会への貢献に対し、1978年11月に藍綬褒章、1988年第39回に日本放送協会放送文化賞が、1980年5月には勳三等瑞宝章従五位が、1989年1月には正五位が授与されている。

(山崎芳男)



伊藤毅 (いとう たけし)

早稲田大学名誉教授

1918年5月3日生まれ。1942年9月早稲田大学理工学部電気工学科卒、1945年9月同大学院特別研究生を修了。1945年4月同理工学部教務補助、1947年10月同学部専任講師及び理工学研究所研究員、1949年4月講師、同12月助教授。1950年4月早稲田大学助教授(新制)、1959年4月同教授、1959年12月「室内音響設計に関する研究」により工学博士、1989年3月定年退職。1989年同名誉教授。1999年9月11日没。